

## 米国と北海道、農産物価格はほとんど違いはありません

そろそろTPP（環太平洋経済連携協定）の話をしなないと、時代遅れになってしまうので、また好きなことを書かせていただきます。6月には方向性がはっきりするらしいが、TPP推進に向けて怒涛のごとく押し寄せる潮流をせき止めることは無理であろう。コメ、畜産、麦などに影響があると発表されているが、なぜか大豆の文字はない。大豆は昭和36年から関税等を支払えば、実質的な自由化が始まっていて、聞くところ、現在では関税ゼロで誰でも輸入できるのだから、TPPなど関係ないと言ふことなのか。

生産者が自由化で一番心配するのはやはり収入だろう。大豆に限らず国産農産物は品質が高いから心配無用！なんてことを言うオメデタイ生産者は存在するだろうが、そのように考えていない生産者、流通、加工、販売者もいるのもまた事実。

昨年、平成22年産の北海道納豆用ユキシズカ2等大豆の概算払いは60kgあたり2700円で、1年後の本年末の予定最終清算額を足しても60kgあたり6000円を超えることはないだろう。ちなみに1月末現在のシカゴの搾油用大豆は27kgあたり14

ドル#60kgあたり2600円が米国の大豆生産者のポケットに入る。この価格をベースに輸入商社は食用大豆にはプレミアムを支払い、その後、輸入されて日本のスーパーでは糖質が国産並みに高いビントン種からできた豆腐などが陳列棚を飾る。そしてそれらの米国内用大豆は日本着で60kgあたり5000円以下のものは存在しない。

ということとは？ 話は単純だ。輸入する側

から見ると、ただが20万tしかない国産大豆に触手を伸ばし、この大豆はこうだのあだのと小うるさくわがままな**国内生産者の寝言**を拝聴したくはないのだ。それよりも日本の農薬・ポジティブリストに記載されてさえいけば、日本国内で登録のない現地大豆用農薬を駆使して「カモン・ベイビー！」と安定供給してくれる生産者と播種前に契約して、米国の広大な大地で栽培・収穫された50万tの食用大豆の方を選ぶ。しかも品質は安定しているので、安全・安心感が違うのだろう。同じ

Vol.36

TPPって「とってもピンクなプレー？」



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに粟50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

オレにも  
言わせる!

北海道長沼発  
ヒール宮井の憎まれ口通信

く、われわれ北海道の大豆の多くも播種前契約がなされ、その結果、秋には入札にかけられることになる。そしてこの入札結果が驚きの数字だ。一昨年の2カ月間近く、北海道産の納豆大豆ユキシズカは落札ゼロ。昨年末も1カ月間、入札がなかったし、12月に入っても上場の2割程度の落札である。そして本州大豆の状況も残念ながら似た状況である。

ここで収入面を見てみよう。私の昨年の納豆用大豆の生産量は140tだった。これは国産(小粒)納豆用大豆の1・4%くらいになるらしい。ありがたいことに消費者が73粒の国産納豆を食べれば、1粒は私の農場で生産された大豆だ。

一農場で国産の1・4%のマーケットを占める方ってあまりいませんよね。もしかしたら表彰状が来ちゃうんですかね? ってことは期待していない。間接的に農水と契約した大豆播種前契約書には表彰状のことは記載されていませんし。

私に与えられた契約の責務は大豆生産であり、勝手に加工や流通までをしようとするとうまくいかなくなってしまふ。大豆をマーケットに売る能力のない者は無理しなくてもよいですよと、言っていただけに農水さまには心から感謝する。

私の大豆売り上げの3分の2は面積当たり他の地元、長沼大豆生産者とまったく同じで、農水予算の交付金の積み重ねである。地元の生産者でさえ「宮井は補助金ばかりもらっている」とスーパードブライしてある者もいるが、昨年は多くの申請者がもたらえた肥料関連の200万円のみで、私だけに特別な補助金はいらない。地方交付税交付金と同じで全国の市町村がよく言われ

る3割自治(農業)の典型だ。

もちろん播種前契約をしないで価格リスクを理解して、ヒール宮井ブランドで流通、加工などに直接販売することもできるのかもしれないが、私には生産以外の能力はないし、興味がない。したがって閣議了解され、両院を通過した法律に基づき、頭の良い農水さまが作った方程式通りの農業を実践するのだから、誰からも批判を受ける必要はない。他の地区は分からないが(本当は知っているが)大豆栽培において、こだわりを持ち自分の考えを出した生産者ほど収益がよくない場合も多い。

理由は簡単だ、農水さまが作った方程式を覆す考えが存在すると思っ

ているらしい。はつきり言おう。農水さまよりも頭が良いと思っ

たアメリカの小麦生産者も北海道の小麦生産者もほぼ同価格の麦を作っていることになる。現実には日本では麦の出荷にあたり、水分を12・5%以下に要求されるため乾燥施設のコストが必要で、およそ60kgあたり500円〜1500円になるので、下手をするとなたの麦を作ることになる。しかし大豆の時と同じく交付金等のシステムがあるので、しっかりと営農をやっているのは、しっかりと農政のおかげである。

### 反対の拳を上げて米国に勝てると思ってる?

話をまとめる。2009年秋にオバマ大統領が来日した時に、このTPPの話が出ていたし、昨年4月に農務長官が東京に来た時も、この話は会場にいた私にも理解できたが、メディア、政府関係を含め誰も興味、いや確認をしなかったのはなぜだろう。ではTPPの次は何か? オバマ大統領が来日した時に、日本政府に速やかに日本国内で組換え作物の導入を即するように要望したことを忘れてはいけない。ではなぜ組換えなのか? 一つに日本国内栽培マーケットの独占が考えられる。国産はゼロ、しかしヨーロッパ企業が日本の種子マーケットを狙う前に、早く手を打たないとい

けない。後続にはあの中国もいるから、と考えているのだろうか。

米国、日本政府によって、既存の農産物と比較して安全性は同等であるとした組換え作物は安全・安心の問題ではなく、種子戦争そのものである。その戦いに太平洋戦争の時と同じく、米国に日本は負けた事実を早く認める教育をするべきである。そしてこの期に及んでTPPを含め、まだ交渉相手にはいたただけ、数字までは確認していないが、感覚的に見て自由化された大豆の方が規制された小麦よりも多くのこだわりを持った生産者がいて、こだわりをもった大豆商品が多いと思うし、小麦も大豆並みに自由化されれば、いろいろなこだわりを持った商品が登場してもおかしくない。

そんなことが分かっているながら、一部の生産者団体が「TPPはんた〜い!」と叫べば、何らかの見返りがもらえると考えるのは、正直言ってホームレスよりもたちの悪い小作人コンジョウだ。そんな親の姿を子供たちが見ているということ

を忘れてはいけない。ところでTPPのもうひとつの意味はTotally Painful People(まったくイタイ人たち)でしたよね、たしか? それとももしかして?